

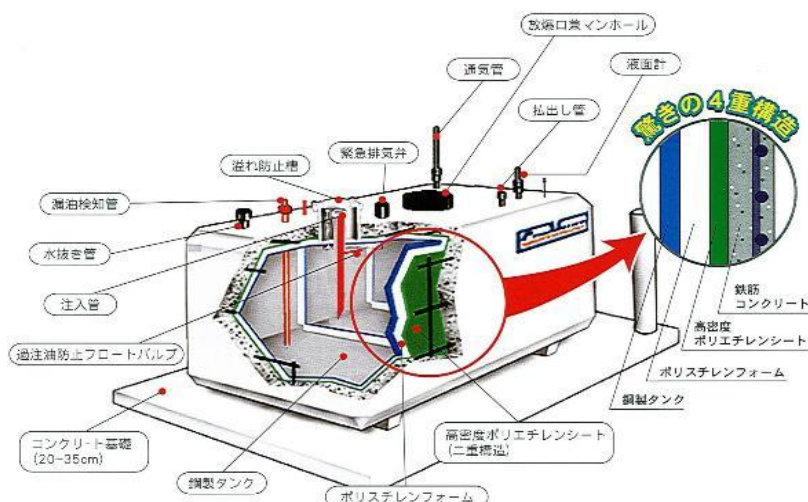
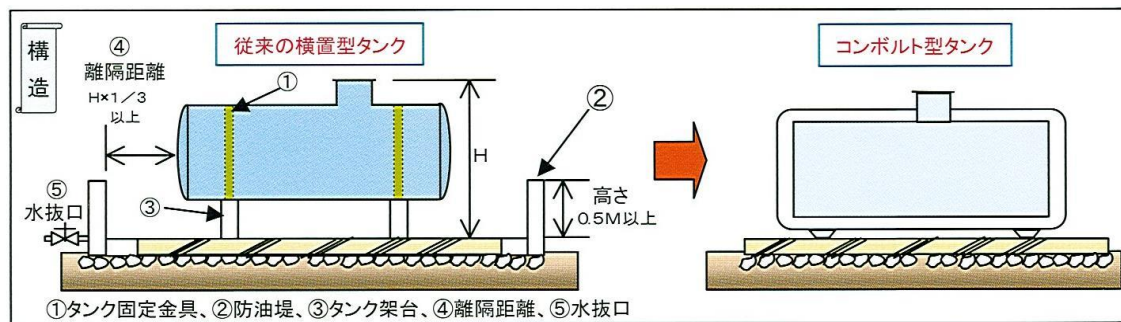
NETIS登録番号	技術名称	コンボルト型屋外貯蔵タンクシステム			
QS-100037-A	副題	防油堤一体型の屋外貯蔵タンク			
分類1	機械設備	ポンプ設備	揚排水ポンプ設備	キーワード: *安全・安心 *コスト縮減、生産性の向上 『環境にやさしい次世代型燃	
分類2	建築設備(機械)	給排水衛生設備工事			
開発目標	*省人化 *耐久性の向上 *安全性の向上				
技術の位置付け	<input type="checkbox"/> 推奨技術 <input type="checkbox"/> 準推奨技術 <input type="checkbox"/> 活用促進技術 <input type="checkbox"/> 設計比較対象技術 <input type="checkbox"/> 少実績優良技術				
特許	<input type="checkbox"/> 有り(特許番号:) <input checked="" type="checkbox"/> なし				
技術賞, 審査証明等	<input type="checkbox"/> ものづくり日本大賞 <input type="checkbox"/> 国土技術開発賞 <input type="checkbox"/> 学会賞 <input type="checkbox"/> 建設技術審査証明				
問合せ先	会社名	コンボルト・ジャパン株式会社		TEL	098-929-0821
	住所	沖縄県うるま市勝連南風原5192番地21		E-MAIL	ishida@convault.jp
	担当者	石田博康			
実績件数 H26.8.7現在	国土交通省	その他の公共機関		民間等	
	9件	16件		45件	

技術概要: (300字以内)

従来の屋外貯蔵タンクにおいては、鋼製タンクの周囲に燃料漏れに備え防油堤が設置され、排水流末には油分離槽が備え付けられる。本技術は、鋼製タンクの周囲を保温材及び緩衝材としてポリスチレンで覆い、更に万一鋼製タンクから漏油した場合に備え、二次封じ込め構造として高密度ポリエチレンシートで覆う。また外部からの衝撃を防護する為、厚さ15cmの鉄筋コンクリートで被覆しているタンクで、UL2085(米国安全規格)を満足している。そのため防油堤と同等の機能を有するタンクとして危険物保安技術協会(KHK)より評価された。

コンボルト型タンクと従来型タンクの比較表

	コンボルト型タンク	従来型屋外貯蔵タンク	従来型地下貯蔵タンク
工期	工場制作のため、タンクを設置後、配管して完成の為、工期の短縮となる	防油堤やタンクの架台など現場でコンクリート構造物を制作するための工期が必要	タンク設置の為の掘削し地下にコンクリート壁を設け、タンク設置後埋戻しなど工期が長期化する
利便性	運用開始後の設置位置変更が生じた場合、タンクを容易に移動可能	設置後の移動は不可能	設置後の移動は不可能
保水性	外部腐食環境から遮断されているのでメンテナンスコストが低減できる	定期的に腐食防止のメンテナンスが必要。また雨後の防油堤内の雨水処理管理が生じる	定期的に漏油の確認が義務付けられている。近年漏油事故多発
安全性	耐火性、耐衝撃性に優れている	鋼製タンクが外部に晒されているため、耐火性、耐衝撃性は無い。万一漏洩事故が発生した場合プール火災等二次災害の可能性大	地震等衝撃が生じた場合、配管が外れるケースが頻発している。



コンボルト型屋外貯蔵タンク構造図



コンボルト型屋外貯蔵タンク設置例